

山参 武々

大富ばやし保存会

自信を胸に、堂々と、
リーダーとなるよう
大きく翔け！



会の発足以来23回目を迎える青松苑での交流会。そのほか、年に10数回の公演を行っています。

楽しいこと、珍しいこと、不思議なこと、
まだまだ知りたいことがいっぱい。
学校で、地域で、毎日の暮らしの中で、
たくさんの人たちが学び、育っています。
いくつになっても、向学心と好奇心は、
むくむくとわいてきます。

「えも早い」。
演技を重ねる
ことで日に日
にたくましく
成長してくれ
る姿を学校や

結成23年目を迎える大富ばやし保存会が、恒例の交流会に青松苑を訪れました。現在は、大富小学校の2、6年生で構成され、演奏曲目も20数曲を数えます。
結成以来指導を続ける会長の都丸幸雄さんは、「演奏する子どもたちのいきいきとした目を見てください。心が躍ること請け合いです」と、文字通りの太鼓判。「今の子どもたちはリズム感がよく、覚えも早い」。

地域の大人たちも優しく見守ってくれています。「ただ、中学生になってクラブや勉強に忙しくなると、お囃子を続けることが難しくなる」と、多くの世代で継承してゆくことが今後の課題とのこと。都丸さんの後を受け継ぐ若き指導者が育ってくることを、市民のみんなが願っています。

「仕事で疲れて帰ってきてても、練習に出れば子どもたちから元気ももらっています」と都丸幸雄さん。



子どもたちとの対話の時間を大切に、一緒になってワクワクする時間をいつまでも。



人形劇すぎのこ

9人のメンバーが仕事や家事などの時間を工夫しながら半年の練習期間と、秋から3月までの公演のサイクルで、にぎやかに活動しています。



「子どもたちに心を開いてもらって、楽しい場を共有したい、ただその思いだけです」と20年以上続く活動の原動力を語る代表の金子良子さん。人形劇の公演を中心に、大型紙芝居や朗読、読み聞かせなど多彩な活動に加え、保健センターでの親子の絵本あそびなど、子どもがいるところならどこでも、幅広いフィールドで活躍しています。お話を怖がったり、驚いたり、喜んだり、子どもたちの豊かな表情にふれることが何事にもかえがたいと皆さん。「今後は、こうした場をつなげていくために、新しい担い手を育てていかなければなりません」とのこと、ぜひ、すぎのこの輪に加わりませんか。